

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	湯河原町真鶴町衛生組合 一般廃棄物最終処分場被覆施設	階数	地上0F地下1F
建設地	足柄下郡湯河原町吉浜2021番地81他	構造	S造
用途地域	都市計画区域 指定なし	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	250 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2015年11月30日
敷地面積	27,657 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社竹中土木一級建築士事務所
建築面積	6,015 m <sup>2</sup>	確認日	2015年11月30日
延床面積	6,007 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社竹中土木一級建築士事務所

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.6

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>一般廃棄物最終処分場の被覆施設であるため、主目的は最終処分場の稼働期間に、①降雨等の埋立地内への進入防止、埋立物の飛散防止であり、さらに埋立物の搬入、重機による埋立作業が安全に行えるように屋内環境を保全する。建築物の周囲は緑化を行い、周辺環境との調和を図っている。</p>	<p>地下部の埋め戻し材の一部は再生クラッシュランの採用し、アスファルト舗装では再生アスファルト合材を採用しパーズ材の使用量を抑える計画である。</p>
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>最終処分場における重機を使用した埋立作業に支障のない室内環境の構築を目指した。ガラリ及びブルーファン換気で室内空気の制御を図る。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>埋立物の搬入及び埋立作業を安全で円滑に行えるように車両動線と内部空間を確保した。建物は大地震に耐える耐震性を有する鉄筋コンクリート造の地下部と鉄骨造の上屋を採用した。屋根材や外装材はガルバニウム鋼板で耐久性の高い材料とした。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>照明はLED照明を採用し、屋根の一部にトップライト(天窗)を設置して省エネルギーを目指している。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>特になし。</p>
	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>敷地周辺は、自然林を主体とした山林であり、「風致地区」に指定されている。東側には「つつじ公園」があり、これに配慮し、敷地は、「つつじ」を主とした植栽を行う。</p>
	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>建物(処分場)内での重機作業に伴う騒音・振動の予測評価を行い、敷地境界線で環境基準値以下となるように建物位置を設定した。また、周辺の山林等にあわせて緑化を図っている。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される